

# 令和3年度第4回福岡市地球温暖化対策実行計画協議会 議事録（要旨）

■日時：令和4年3月24日（木）10:00～12:00（ハイブリッド開催）

## ■議事

- ・福岡市地球温暖化対策実行計画 原案等について

## ■意見等

議事について、各委員から出された意見等と質問に対する事務局からの回答は以下のとおり。

### ▶ 福岡市地球温暖化対策実行計画 原案

#### 第3章 都市の将来像

- ・ビルでは、センサーを使った空調や照明の個別制御システムを入れてエネルギーの効率化を図れることから、イラストに取り入れることを検討してはどうか。またEVの充電施設やカーシェアによって、社用車からの温室効果ガス排出量削減につなげていく取り組みできることから、そのような内容もビル、あるいは住宅に入れると良いと思う。（意見）
- ・住宅において、家庭における温室効果ガス排出量の3分の1が給湯であることから、省エネ家電のところに、ヒートポンプなどの高効率の給湯器を追加して欲しい。また、本編にV2Hに関する記述があることから、そこにEVとか蓄電池と組み合わせ、更に自転車のイラストも入れると良いと思う。また、店舗にエシカルコーナーとあるが、一部の人だけがエシカルに取り組んでいるという感じのコーナーにするのではなく、全体的にエシカルが広がっているイメージがあると良いと思う。（意見）
- ・カーボンプライスなどのインセンティブのもとに街中と地方でどのような姿になるかを伝えるような内容が良いと思う。福岡市も郊外だと比較的场所もあり、産業界も林業等の会社を持っていることから、積極的に活かすという意味で農林の工業化を始め、住宅やビルもそこを活用したカーボンクレジットにつながるような絵を描いていければ良いと思う。（意見）
- ・都市のイメージ図と別でも良いが、何らかの目標を見える化したら良いと思う。イラストにプラスでイメージグラフみたいなものがあれば、分かりやすいのではないかと。（意見）
- ・都市のイメージ図の説明で、若者の意見をとり発言があったが、今後何かをされる予定なのか。（質問に対する回答）

これまで大学生とワークショップを実施し、その中あった意見についてもこのイラストの項目に加えている。

- ・市民としてやることや事業者としてやることを、都心部とまち（住宅地）と分けた方が良いのではないかと、例えば脱炭素の店舗のところのエシカルがあるが、循環型についても入れると良いのではないかと。（意見）
- ・1つのイラストの中で表現するというのを考えているのか。また文字まで併記するとなると恐らくかなり詰まったイラストになってしまい、却って分かりにくくなる可能性があるのではないかと。その辺をしっかりと考えながらイラスト化した方が良いと思う。（意見）
- ・都市のイメージ図において、このイラストを入れることは良いと思う。少し難しいかもしれないが、温室効果ガス排出量実質ゼロに向けて様々な目標を立てていることから、住宅や様々な項目が書いてあるが、一般の人から見て全体の削減目標に対してどれくらいの削減割合があるのかなど、視覚的に見るともっと分かりやすいのかと感じた。（意見）

- ・2050年カーボンニュートラルビジョン等を公表しており、その中で様々なイラストを活用していることから、今後の作成される際は参考にしてもらえたらと思う。(意見)
- ・レジリエントなまちづくりというものも要素として入れて欲しい。具体的には、福岡市にはアクロス福岡のような建物があり、その緑は防災減災だけではなく、脱炭素にもつながり、熱中症の緩和にもなるような様々な機能があることから、そのような福岡市の素晴らしさというものを是非表現して欲しい。また、次世代の育成などの人材育成や、防災という観点でも避難所にもなりえる公共施設とか学校施設とかも大事であることから、小中学校などの教育機関を可能な範囲で入れると良いと思う。(意見)

## 第5章 対策の施策

### <全般>

- ・行政の施策とその成果指標との結びつきと、どの程度温室効果ガス排出量の削減につながるのかを、福岡市で考え方等があれば参考にしたい。

(質問に対する回答)

進行管理を行う上で、これまで毎年実行協議会の中で前年度に行った市の取組みということ、施策の実績として報告している。ただし、市役所の取組みが市民や事業者の活動全てに関与しているわけではないため、あわせて成果指標の数値で市民や事業者の努力について、省エネが順調に進んでいるなど、把握に努めている。

### <削減見込量、成果指標>

- ・温室効果ガス削減見込量や成果指標の設定や算出方法を説明してほしい。また、再生可能エネルギー施策や炭素吸収施策は削減見込量が設定されていない理由は何か。

(質問に対する回答)

例えば自動車部門については、ガソリン車からの温室効果ガス排出量が多く占めることから、成果指標としてガソリン車の割合を下げることにしている。算出方法は、国の目標や市独自施策から、新車乗用ガソリン車の販売割合35%を目指し、そこまで減らしたときの削減量を計算して、2030年度の削減見込量を算出している。

再生可能エネルギーは家庭部門や業務部門のエネルギーの転換で計上しているため、再生可能エネルギー施策では記載していない。また炭素吸収施策では、関連計画として、「福岡市新・緑の基本計画」があるが、現在その計画の見直しについては所管局で検討中であり、将来の目標としての吸収量が示されていないことから、吸収量の目標値を設定していない。

### <家庭部門>

- ・福岡市は集合住宅が多いというのが特徴だと思うことから、集合住宅で何か対策が上手く出来れば、全国に対して非常に貢献にもなるかと思う。ただし、集合住宅で難しいと感じるのが、賃貸物件が非常に多いことである。賃貸に住んでいる人だとオーナーが変えないと省エネ機器の導入はできない。そのため、インセンティブがあまりなく、賃貸物件ではいつまでも対策されずに残る所があることから、計画にその要素を入れて欲しい。(意見)

#### <業務部門>

- ・「脱炭素につながるテーマでの実証実験の支援」という項目があるが、こういった支援を検討しているのか。

(質問に対する回答)

今後イノベーションで様々な提案が出てくると思うが、実際に社会、企業が使っていくとなると、どこかで実験しないといけないことから、福岡市のフィールドを使ってできないかなどで支援していくことを想定している。

#### <再生可能エネルギー施策>

- ・再エネの利用拡大について、地域のレジリエンスの観点や、再エネは出力のコントロールが難しいことから、調整電源についても検討しておく必要があるかと考えている。再エネの調整電源として、コージェネレーションや、分散型エネルギーシステムなどについても検討されているのか確認したい。

(質問に対する回答)

地域のレジリエンスの観点でコージェネレーションの推進については、エネルギーの利用の効率化という観点からも、コージェネレーションや地域熱供給は選択肢の1つであり、省エネを進めていく上の有効な手法の1つと理解している。

- ・カーボンニュートラル LNG の拡大を図っていこうとしており、このようなエネルギーも選択肢として検討しているのか確認したい。

(質問に対する回答)

今後カーボンニュートラル LNG が普及していく事で、ガスエネルギーからの温室効果ガス排出量が減っていくという事はとても良いことであることから、そのような技術革新の動向、カーボンニュートラル LNG の導入に関する情報を提供いただきながら、この計画を進行管理する中でどう盛り込んでいけるのか検討していきたい。

#### ➤ 福岡市役所地球温暖化対策率先実行計画（案）

- ・前計画ではエネルギー消費量を 2013 年度から 8%削減の目標としているが、今回計画では二酸化炭素の排出量を 2020 年度で 32%、削減目標として 2030 年度で 70%削減と示している。エネルギー消費量を実際に 2030 年度までどうするのかというところが示されていないので、その部分を説明いただきたい。

(質問に対する回答)

今回の目標は、二酸化炭素排出量としているが、省エネについても引き続き取り組んでいくこととしており、全計画が年1%ベースで下げるという形で進めていることから、これについては引き続き取り組んでいきたいと考えている。

- ・需要側におけるカーボンニュートラルに向けた機運の醸成が非常に重要だと考えている。その一環で社内の取組みを社外に向けて PR していく事で、社会的な機運の醸成をしていけないかと考えている。そのため、社員及び市職員の省エネについて今後連携できたら良いと思う。(意見)